

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21560667

研究課題名（和文）中井家所蔵資料の整理と公儀寺社造営における中井家の役割に関する研究  
 研究課題名（英文）A List Creation of the Document of the Nakai Family, and a Study on the Role of the Nakai Family in Temples-and-Shrines Construction.

研究代表者

谷 直樹 (TANI NAOKI)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授

研究者番号：40159025

研究成果の概要（和文）：中井家所蔵資料を整理して7,566点の目録を作成し、その内の5,195点が、2011年に国の重要文化財に指定された。大工頭の中井家は、江戸時代を通じて畿内・近江の6か国に所在する由緒ある寺社の造営に関与した。中井家は、城郭や禁裏の造営では6か国の大工組を介して職人を召集して施工したが、公儀寺社造営である四天王寺と住吉大社では、配下の棟梁を現場に派遣して設計・見積を担当させ、施工は入札で選ばれた大工が行った。

研究成果の概要（英文）：The document of the Nakai family was arranged, the list of 7,566 points was created, and 5,195 of them were designated as the important cultural property of the country in 2011. The Nakai family of the carpenter head participated in the construction of famous temples and shrines located at six countries of 5 Kinai and Omi through the Edo period. Although the craftsman was called from the carpenters' groups of six countries at the time of construction of a castle or a royal palace, in the Shitenno-ji Temple and the Sumiyoshi-taisha Shrine of Imperial court construction, the Nakai family dispatched the subordinate's carpenter, and took charge of a design and evaluation. Moreover, the carpenter selected by the bid took charge of construction.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築史・意匠

キーワード：建築史，中井家，大工頭，公儀造営，寺社作事，近世建築史

## 1. 研究開始当初の背景

京都大工頭中井家は、江戸時代に畿内及び近江の6か国の大工を支配し、同国内における公儀造営の設計・施工を家職としていた。公儀造営の建物は、城郭・内裏・幕府の出先機関、そして由緒のある代表的な寺社であった。このように、近世を通じて上方の建築界

を主導した中井家の解明は、近世建築史の重要な研究テーマである。しかし、中井家関係の資料は、中井家、宮内庁書陵部、京都府立総合資料館、京都大学に分蔵されている。そこで、未整理の中井家所蔵資料を整理して内容を把握することが、この研究を開始する第1の背景である。また、中井家に関与した建

物のうち、寺社関係の作事は、未だ総合的に解明されていないので、その解明を第2の課題として設定した。

## 2. 研究の目的

本研究では、中井家の当主である中井正知氏の所蔵資料の整理と編集によって膨大な資料を研究者共有の財産とすることを第1の目的とし、これらの資料を用いて、これまで等閑視されてきた中井家2代目以降の事績や建築作品を抽出し、とりわけ寺社における公儀作事の実態を中井家と中井役所、寺社、大工組の3つの側面から解明することを第2の目的としている。

## 3. 研究の方法

### (1) 中井家所蔵資料の整理

- ①資料ごとに、名称、年月日、概要などのデータを入力し、グルーピングして整理する。
- ②既刊の目録である『大工頭中井家文書』や『幕府京都大工頭中井家文書目録—長香寺寄託分—』を踏まえ、さらに新出資料を加えて新しく分類し、資料リストを作成する。1点ごとの資料は封筒に収め、木製の資料保管箱に収納する。

### (2) 中井家歴代の事績と公儀寺社造営における中井家の役割に関する考察

- ①中井家所蔵資料から今回の研究課題に関わる文書を検索・抽出するとともに、それ以外の中井家関係文書（京都府立総合資料館本、宮内庁書陵部内匠寮本、京都大学付属図書館本）の検索・収集、また寺社関係文書、大工組関係文書を検索し、必要な史料の写真撮影や原本確認を行う。つぎに、公儀の寺社造営における中井家の役割、寺社大工と中井役所棟梁衆との関係、公儀造営の実態などを問題意識にして、中井役所棟梁衆の役割と設計、施工大工の選定と入札、寺社側の対応、寺社の造営現場の実態、公儀造営に動員された大工組について検討を行う。

## 4. 研究成果

### (1) 中井家所蔵資料の整理

- ①資料別に仮タイトルを付し、作成年月日、差出人、宛先、法量、資料の形態、資料の概要（包紙の有無など）を加えて「仮目録」を作成した。その結果、全点数は7,566点に達した。中井家所蔵資料の分類項目別の内訳は以下の通りである。

i) 大工頭中井家文書	365点
ii) 指図・絵図類	675点
iii) 掛幅・卷子類	171点
iv) 箱目録	157点
v) 中井家	996点
vi) 中井役所	383点
vii) 勘定	621点

viii) 作事	664点
ix) 書状	1,041点
x) 武家兵法書	203点
xi) 近代資料	1,341点
xii) その他	949点
合計	7,566点

この分類項目の詳細は次の通りである

- i) 大工頭中井家文書は、『大工頭中井家文書』（慶應通信刊、1983）に収録された文書群で慶長年間に中井正清に宛てた武家の書状が多く収録されている。
  - ii) 指図・絵図類は、『京都大工頭中井家建築指図集—中井家所蔵分—』（思文閣出版刊、2003）に収録された絵図・指図とその後の調査による追加資料である。追加資料については「大工頭中井家建築指図〔中井家所蔵本〕の新出資料について」（『大阪市立住まいのミュージアム研究紀要・年報』第7巻、2009）を公表した。
  - iii) 掛幅・卷子類は、初代正清・3代正知・9代正路・10代正居・2代正侶妻いと各肖像画、中井家歴代当主の印鑑・書判、徳川秀忠・小堀政一（遠州）の掛幅などを含む、中井家伝来の書画・器物類である。
  - iv) 箱目録は、中井家で木箱に入れて伝来したもので、朱印状・黒印状、口宣案、知行目録が含まれている。
  - v) 中井家は、中井家に関する系譜や由緒書・親類書などが含まれている。
  - vi) 中井役所は、中井役所成立以後の役所の運営、配下の棟梁衆、大工組に関する資料などが含まれている。
  - vii) 勘定は、中井家の貸借に関する書類や中井役所の勘定簿などが含まれている。とくに、天保年間から幕末に至る中井役所の勘定帳が残されている。
  - viii) 作事は、中井家が関与した作事や修復に関する覚書、目録、書状、一札などが含まれている。
  - ix) 書状は、諸家から中井家当主に宛てたもので、3代・正知時代のものが多い。
  - x) 武家兵法書は、幕府の鉄砲方を勤めた稲富一夢が創始した稲富流砲術の伝授書、大坪流（馬術）、日置流（弓術）など、武家としての中井家を示す資料である。
  - xi) 近代資料は、中井役所の解体以降の近代資料である。
  - xii) その他は、典籍類などである。
- ②既刊の目録である『大工頭中井家文書』や『幕府京都大工頭中井家文書目録—長香寺寄託分—』（川上貢編）を踏まえ、新出資料（約4,000点）を加えて新しく分類し直し、資料リストを作成した。資料は1点ごとに封筒に入れ、封筒の表に文書名、作成年月日、差出人、宛先、備考を記入し、研究代表者が館長をつとめる大阪市立住まいのミュージアムに寄託され、同館の収

蔵庫内に設置された資料保管用の木製抽出に収納し、恒温・恒湿の状態では保管されている。

- ③2010年9月に文化庁美術学芸課の確認調査があり、①に記した「仮目録」に基づいて、1点ごとに再確認をした。その結果、2011年6月、近世にさかのぼる資料5,195点が「大工頭中井家関係資料」の名称で、国の重要文化財(歴史資料)に指定された。指定の理由書(抜粋)は次の通りである。

「大工頭中井家関係資料

一、文書・記録類	3,942点
一、指図・絵図類	645点
一、典籍類	515点
一、書画・器物類	93点

(中略)これら一括資料は江戸時代における大工頭中井家および中井役所の活動を知る上での基礎資料であり、同時代における多様な公儀作事建築物の内容のみならず、作事の経過や諸職人支配の実態をうかがううえで最もまとまった資料群といえる。特に慶長から元和年間の作事関係資料が充実する点が特筆され、近世史研究上とりわけ近世建築史研究上に価値が高い。」

- ④中井家資料の写真撮影を行い、近代分を除いて、中井家関係、中井役所関係、作事関係、指図・絵図類、書画・器物類などを撮影した。資料が膨大なため、全体の60%の撮影を終了した。

(2)中井家歴代の事績と公儀寺社造営における中井家の役割に関する考察

- ①中井家文書の目録から大坂に関する中井家初代・正清の事績として、方広寺造営の絵図・指図と文書類、大坂の陣に関する武家書状を検索し、写真撮影と読本を作成した。また、中井家歴代が関与した公儀寺社造営の一覧表をまとめた。
- ②公儀寺社造営のうち、中井家研究ではこれまで注目されなかった江戸時代の大坂の仕事として、住吉大社、四天王寺の史料調査と検索を行い、造営や遷宮に関する文書史料や絵図・棟札等を調査し、写真撮影と読本を作成した。また、京都府立総合資料館の「中井家資料」の中から、住吉・四天王寺に関する指図のデータを収集した。
- ③大坂の陣に関しては、中井家初代・正清が徳川家康の側近として方広寺鐘銘問題に深く関与し、また大坂冬の陣では家康から御陣小屋の建設と鉄の楯の製作を命じられ、大坂冬の陣図屏風(東京国立博物館蔵)には家康の本陣や御陣小屋建設の様子が描かれていること、中井家文書に鉄の楯の目録があることなどを指摘した。また、板倉勝重・片桐且元・福島正則等、諸家から中井正清に宛てた書状が相当数残されて

おり、一次史料として貴重である。

- ④大坂の陣の発端となった、方広寺の絵図・指図や作事関係の史料を調査し、造営の経過、造営組織の編成、中井家の関与の範囲、建物の特徴などを考察した。
- ⑤徳川再建の大坂城に関して、中井家所蔵資料から文書、指図などの読本を作成した。また、また、大坂城の本丸御殿の100分の1模型を制作し、主要な御殿の障壁画を復元した。
- ⑥大坂の陣後の元和年間に復興された四天王寺の伽藍は、中井家2代目の正侶と後見人の中井利次が差配し、配下の大工棟梁を派遣したことを明らかにした。
- ⑦江戸時代前期、明暦2年(1656)と宝永6年(1709)の住吉大社の遷宮について、中井家所蔵資料や棟札・指図を検討し、明暦度は中井家3代目の中井正知が大工を勤め、中井配下の棟梁茂左衛門を大坂に派遣し、設計・見積を担当させている。工事は大坂の大工新左衛門が担当している。宝永度は大坂御大工の山村与助が大工を勤めている。この山村与助は、翌年に中井家4代目を相続し、中井正豊を名乗ったことも明らかになった。
- ⑧江戸時代の大坂の大工と大工組の変遷を検討し、大坂・天満の大工組は、江戸時代初期には幕府の御用作事への動員組織として編成されたこと、御用作事への動員時は残留大工が路銀を負担したことを明らかにした。さらに大工組の編成は大坂三郷の町割と対応して、計画的に配置されたことを指摘した。
- ⑨17世紀末ごろから大工組内部に仲間意識が胚胎し、次第に同業者仲間の性格が強くなったこと、天保の改革による仲間解散令ののちも、向寄の名に変更して組織を温存し、嘉永年間に復活して幕末まで存続したことなどを指摘した。
- ⑩以上の研究成果として、大阪市立住まいのミュージアムの企画展図録である『大坂の陣と大坂城・四天王寺・住吉大社の建築』(2012年3月発行)に執筆した。展覧会は、同ミュージアムの企画展示室において、2012年4月20日から5月20日を期間として開催された。
- ⑪中井家の公儀作事のうち、内裏の寛政度造営に関して、禁裏修理職大工の木子家が果たした役割と、紫宸殿の設計、とくに屋根形式の設計過程を考察した。研究成果は、「日本建築学会計画系論文集」に連名で発表した。
- ⑫2009年に新しく国宝に指定された久能山東照宮の建物について、大工棟梁をつとめた中井正清の事績に焦点を当てて若干の考察を行った。

(3) 成果の位置づけとインパクト及び今後の展望

- ① 中井家所蔵資料は、江戸時代を通じ大工頭を世襲した中井家の本家に伝来した資料群で、近世建築史を解明する上できわめて貴重である。その内容は、文書・記録類、指図・絵図類、典籍類、書画・器物類に大別できる。
- ② 文書・記録類は点数が膨大で多岐にわたるが、初代の正清に関する文書としては、家康側近の年寄衆、京都所司代等から正清に宛てた書状類や、作事に際して幕府側と正清との交渉内容、家康の意向、正清の動向を具体的に示すものである。作事に関する証書類は、中井家による作事指揮、工匠動員、労働管理、勘定の実状を明らかにするものである。2代目以降の資料では、家政関係の文書、中井役所関係の文書、作事の関係文書、勘定関係の文書および書状類などからなり、江戸時代全体の動向をカバーする資料である。
- ③ 指図・絵図類は建築図面が大半を占め、指図(平面図)が中心で、ほかに建地割図(立面・断面図)、起こし絵図などがある。慶長17年(1612)ころの名古屋城指図を最古とし、江戸時代末期に至るもので、武家建築図、公家建築図、寺社建築図、茶室・数寄屋図、地図・絵図類など多分野におよぶ質量ともに豊富な建築図群であり、近世建築史上に重要である。
- ④ 江戸時代前期の武術書や武家故実書、および3代正知の書写・手沢本を中心とする典籍類、中井家当主の肖像画、当主の交遊を証する書籍類、初代正清以降の歴代が所有した印章からなる書画・器物類があり、幕府の旗本としての中井家の身分と生活を物語る資料である
- ⑤ 中井家と大坂との関係は、これまで注目されてこなかったが、今回の研究により、中井家と豊臣秀頼との関係、方広寺の造営、大坂大工の動員方法、大坂の陣との関わりを詳細に論じることができた。
- ⑥ 大坂の陣後、大坂城の再建、四天王寺の再建、住吉大社の遷宮などがあって、江戸時代の大阪の町が復興される。今回の研究で、中井家の歴代、とくに正侶(2代)、利次(2代後見)、正知(3代)、正純(3代後見)、正豊(4代)が深く関与していたことが明らかになり、大坂のまちづくりと中井家との関係が改めてクローズアップされた。
- ⑦ 以上の研究成果を集大成した展覧会を企画し、2012年4月20日から5月20日の期間、大阪市立住まいのミュージアムにおいて、企画展「大坂の陣と大坂城・四天王寺・住吉大社の建築―世界遺産をつくった大工棟梁・中井大和守の仕事(Ⅱ)」を開催し、4大紙にも紹介され、多くの市民が見

学を訪れた。

- ⑧ 今回の科研の期間中に実現できず、残された課題は、以下の通りである。「大工頭中井家関係資料」は国の重要文化財に指定されたため、厳密な管理が要求された。資料の保存に際しても、ラベルの貼付、中性紙袋での保管など、厳しい条件が付いた。加えて資料点数が膨大なため、研究当初に予定していた上記の作業を実施することができなかった。また、公開期間も年間60日と制限されるので、劣化防止の管理が必要である。絵図・指図類を中心とした資料の修理とともに今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

- ① 栗本康代・植松清志・岩間香・谷直樹，復古紫宸殿における屋根の設計―寛政度内裏に関する研究(4)，日本建築学会計画系論文集，査読有，第669号，2011，2183―2190
  - ② 栗本康代・植松清志・岩間香・谷直樹，禁裏修理職大工の木子家―寛政度内裏に関する研究(3)，日本建築学会計画系論文集，査読有，第652号，2010，1591―1597
  - ③ 谷直樹，大工棟梁中井大和守正清と久能山東照宮，月刊文化財，査読無，2010，2―3
  - ④ 谷直樹，大工頭中井家建築指図(中井家所蔵本)の新出資料について，大阪市立住まいのミュージアム研究紀要・年報，査読無，7巻，2009，11―16
- [図書](計2件)
- ① 谷直樹編著，大阪市立住まいのミュージアム刊，大坂の陣と大坂城・四天王寺・住吉大社の建築，2012，92
  - ② 谷直樹，坪井清足先生卒寿記念論文刊行会，世界遺産の建造物と大工棟梁・中井大和守，2010，1194―1203

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷直樹(TANI NAOKI)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授  
研究者番号：40159025

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし